

1 内政

ミクロネシア連邦政府事故調査官、ニューギニア航空（P X 0 7 3）の事故原因に関する第一次調査報告書を提出

ハルバート・ミクロネシア連邦政府事故調査官は９月２８日にチューク空港で発生したニューギニア航空の事故に関わる第一次調査報告書を提出した。報告書はこれまで発表された事実関係の記述が主な内容となっており、事故原因の分析や特定にはあと１年ほどは要する見込み。詳細は第６３９号を参照。

（１０月２６日付 カセリエプレス紙）

ポンペイ州警察、家宅捜査を行い、州公共インフラ整備に関わる汚職容疑で３名を逮捕

２４日、ポンペイ州最高裁の家宅捜査令を受けて、ポンペイ州警察はＺＪ建設の事務所や関係者の家宅捜査を行い同社の Zaiger Sonden 及び同社に入札上の不当な便宜を図ったとされるポンペイ州職員の Emereneciano Canama, Jack Yakana（元州副知事）の計３名を逮捕した。州警察によると２０１７会計年度で実施された３０件の州インフラ関連プロジェクトの内、必ずしも最低落札価格ではなかったものの、ＺＪ建設が半分の１５件を落札し、建設予算の５０～５５％にあたる６５１,４２１.５１ドルがＺＪ建設に不当に流れたと見ている。

（１０月２４日付 カセリエプレス紙）

ポンペイ州政府、サルバドール・イリアルテ・ネッチ地区イソ・ナンケン（ハイランクの伝統的リーダー）を犯罪教唆の罪で起訴

最近のポンペイ州公共市場（注：同市場は自身が伝統的リーダーを務める土地に属している）を不法占拠している住民と右への立ち退きを要求しているポンペイ州検察との争いに関して、ポンペイ州検察は２０１８年８月３１日までの立ち退くよう警告書を発出したが、イリアルテ氏は不法占拠住民に対して右警告は無視してこのまま市場にとどまるべきと住民を教唆・煽動した罪で起訴された模様。

（１０月１１日付 カセリエプレス紙）

2 外交

ジョージ副大統領、中国を訪問

9月26日、甘肅省で開催されたシルクロード国際文化博覧会に出席するため訪中したヨシオ・ジョージ副大統領は、同地で孫春蘭国務院副総理と会談した。同副大統領の訪中は9月23日の広州訪問に始まり、同地の医療、教育、漁業、農業及びエネルギー関連施設を視察した他、広東省中山市で共産党幹部等と懇談し、FSMとの協力について話しあった。

詳細は往電第653号を参照。

(9月26日付 カセリエプレス紙)

クリスチャン大統領、国連総会で演説を行い、気候変動への取り組み強化を訴える

9月27日、第73回国連総会に出席したクリスチャン大統領は一般演説の中で気候変動対策の重要性につき強調し、気候変動による海面上昇により真っ先に影響を受けるのはミクロネシア、マーシャル、ツバル、キリバスの小さな島嶼国であり現実かつ深刻な問題であるとして、関係国によるモントリオール議定書やパリ協定の早期履行を強く呼びかけた。またミクロネシアはPIF（太平洋諸島フォーラム）で採択された海洋及び海洋資源の保全に関する宣言(Declaration to safeguard the Ocean and its resources)や海洋ゴミの除去に関わる行動計画(Pacific Marine Litter Action Plan)の早急な実施を促したいと述べた。

(9月27日付 カセリエプレス紙)

パニュエロ連邦議会議員、カルヴォ・グアム準州知事と会談

18日、漁業や開発関連の二国間会議に出席のためグアムを訪問中のパニュエロ連邦議会議員（ポンペイ州選出、連邦議会資源開発委員会委員長）はカルヴォ・グアム準州知事と会談した（在グアムのミクロネシア総領事館員が同席）。会談中、パニュエロ議員からFSMコンパクト信託基金等の現状を含むミクロネシアの開発の現状等について説明した他、カルヴォ準州知事からは、先にグアムほかを襲った台風 Mangkut の被害に対するミクロネシア連邦議会による20万ドルの見舞金に対し礼を述べた。

(10月18日付 カセリエプレス紙)

3 経 済

ミクロネシア副大統領がADB（アジア開発銀行）と面会

ミクロネシア連邦のジョージ副大統領は10月22日～25日までポンペイ州を訪問したADBのExecutive DirectorであるDr. Kshatrapati Shivajiと面

会した。Shivaji 氏はこれまでにミクロネシアを訪問した ADB 関係者の中で最もハイレベルであり、訪問の目的はジョージ副大統領への表敬訪問と新年度に ADB がミクロネシア対して実施する計画、活動及びイベントについての説明であった。表敬訪問の中で Shivaji 氏はミクロネシアに対する割当を年間 600 万ドルから 2 倍の 1,200 万ドルにする旨伝達し、また、ミクロネシアに新しい ADB の事務所を設立することについて議論した。また、Shivaji 氏はピーターソン・ポンペイ州知事、ライリー駐ミクロネシア米国大使、フレイザー駐ミクロネシア豪州大使、ミクロネシア開発銀行及び F S M 銀行関係者等と面会した。
(10月25日付 カセリエプレス紙)

4 経済協力

「チューク州聖セシリア学校スクールバス整備計画」引渡式

9月25日、草の根・人間の安全保障無償資金協力による「チューク州聖セシリア学校スクールバス整備計画」引渡式が聖セシリア学校で開催された。当該プロジェクトにおいては、チューク州聖セシリア学校に対し、31,830 米ドルが供与された。

当該プロジェクトでは、チューク州聖セシリア学校へ徒歩での遠距離通学を強いられている児童の負担の軽減、悪天候に起因する遅刻・欠席の削減、生徒の通学時の安全を確保するために、定員 26 名のスクールバス 1 台を供与するもの。スクールバスは児童の通学時また課外活動等で活用される。

式典上の挨拶において、堀江大使はミクロネシア連邦と日本の外交樹立 30 周年という記念すべき年にチューク州の将来を担う聖セシリア学校の生徒たちへ教育分野に関わる支援を出来ることはこの上ない喜びだと述べた。アンジェリーノ・ロソコ州政府行政長官とアンセルモ・ダニエル ODA 職員は、日本政府による継続的な支援に深い感謝の意を表した。ジェシー・ウィリアム聖セシリア学校運営委員長及びフェルナンド・ティタス校長は長年の夢だったスクールバスを供与してもらえたお陰で授業が時間通りに始められ、生徒が時間通り安全に登校できるようになることは非常に嬉しく思う、と述べた。

式典には、チューク州政府職員、聖セシリア学校運営委員会役員、同校の先生及び生徒、大使館職員が出席した。

(11月12日付 カセリエプレス紙)

ポンペイのドイツ共同墓地とソケース合同墓地が修復される

25日、ポンペイ州 Kepinle にあるドイツ共同墓地の修復を祝うセレモニーが行われ、ピーターソン・ポンペイ州知事や在フィリピン・ドイツ大使館の

Thorsten Gottfried 一等書記官，コーラー歴史保存官等が出席した。ドイツ共同墓地にはドイツ統治時代（１８９９－１９１４年）にソケース島で起きた暴動によって亡くなった人々が埋葬されており，今回のフェンスの設置等の修復は在フィリピン・ドイツ大使館，歴史保存局，ロータリークラブが共同で５，５００米ドルを出資し実施された。在フィリピン・ドイツ大使館は墓地をきれいに保つために１台の草刈り機も寄付した。

（１０月２５日付 カセレリエプレス紙）

５ 文化・教育

特になし。